

アラスカ・カナダの山旅・概要

2011年3月25日～4月9日

中京山岳会は1969年にアラスカ・カナダ国境に聳えるフェアウェザー峰(Mt. Fairweather, 4663m)登山(隊長・高坂晋、他4名)を実施した。(1969年 中京山岳会発行『青い氷河』を参照。)40年ほど前のことである。その40周年記念としてアラスカ・カナダの山旅を今回、会の行事として計画された。参加予定であった高坂は仕事の都合が付き、隊員からは深水修二だけが参加し、それに企画した沖允人と妻の道子の3名になってしまった。

沖が3月25日に先発し、31日にシアトルで深水と合流する。シアトルからアンカレッジに飛び、タルキートナへ約4時間かけて陸路を移動する。

4月1日、約1時間30分のマッキンリー遊覧飛行を行う。気温はマイナス4度で冷える。事務所で簡単な搭乗手続きをする。氷河に降りると雪が深いというのでオーバーシューズなどを借用する。乗るのは4人乗りの小型機である。午前11時30分にスムーズにフライトする。



滑るように滑走路を走り、マッキンリーに向かって高度を上げる。マッキンリー(Mt. MaKinley(Denali), 6194m)・ハンター(Mt. Hunter, 4442m)・フォーレイカー(Mt. Foraker, 5304m)の、マッキンリー3山を眺めながら北のペテルス氷河、北東の大きなムルドロウ氷河の上をあちこちと飛ぶ。岩壁が手に取るほどの近さまで接近してくれる。やがて車輪の下に小さいスキーを装着し、一般登山コースのある南側のカヒルートナ氷河の右手の高度約3600mの氷河上に着陸する。飛行機から降りると、意外に柔らかい雪で一面おおわれ、膝上までもぐる。オーバーシューズ着用は正解である。マッキンリーの頂上が目の前に見えている。無風快晴である。こんなことはこの時期では珍しいという。真っ青な空に聳えるマッキンリーの頂上をあおぎ、一面が銀世界の中でのひとときは、人生最高の贅沢な贈り物であった。

翌日は、雪が降って、あたりは一面薄っすらと新雪であったが、駅舎の他かに何も無いタルキートナ駅まで行き、午前 12 時にタルキートナ駅発のアラスカ鉄道でフェアバンクスへ向かう。午後 8 時 30 分頃フェアバンクスに到着。

翌 4 月 3 日は曇り、ときどき小雨であったが、午前 3 時 30 分に起床し、午前 4 時 30 分に空港へ行く。かなり冷える。フェアバンクス午前 6 時 00 分発のアラスカ航空でジュノーへ飛ぶ。

ジュノーでは、市の 20km ほど先にあるメンデンホール氷河へ観光に行く。年々氷河は後退しているようだ。40 年ほど前にここを訪れた深水は、氷河の後退を目の当たりにして感慨深げであった。

4 月 4 日、ジュノーからアラスカ・マリン・ハイウェイのフェリーでヘインズへ向かう。途中、5-6 匹のイルカが船と競争するように頭を出したり、クジラが尻尾を見せたり、両側の山々からの氷河も見られたり、飽きない航路であった。船内は暖房がきいているが、甲板に出ると風が強く、羽毛服を着なければならなかった。フェイバリット海峡を進み、雪山と森林で囲まれたリン海峡の中を進む。約 5 時間の航海でヘインズ港に午後 4 時に着く。

4 月 5 日、ローガン峰(Mt. Logan, 5959m)とフェアウェザー峰の遊覧飛行をするため、空港会社のあるヘインズ・ジャンクションまでヘインズから約 250km 北に行く。午前 6 時 30 分、薄暗い中をレンタカーで出発する。道路は幸い一部しか凍結していない。しかし、気温は零度に近いので、用心して走る。ヘインズ・ハイウェイに入り、約 70km 走るとアメリカ税関、次いでカナダの国境がある。カナダとの時差が 1 時間あり、道路の標識が mile から km に変わる。しばらくでブリティッシュ・コロンビア州からユーコン準州に入る。素晴らしい雪山が続く。このドライブで野生の山猫やムースも見ることができた。アラスカは野生の国だということを実感する。

午前 11 時にヘインズ・ジャンクションに到着する。空港の中にあるシフトン・エアの事務所に行く。他のアメリカ人 2 名と相乗りになる。天候が良ければローガン峰の南東約 240km にあるフェアウェザー峰方面までフライトするが、パイロットの判断になるという。6 人乗りの小型機である。12 時 30 分に出発し、カスカウルシュ氷河、南アルム氷河、ローウエル氷河、ピナクル・ピークを回る。ローガン峰が遠くに見える。天候はあまり良くなく、160km ほど離れているアラスカとカナダの国境上にあるフェアウェザー峰方面まで



氷河とローガン山群

フライトはできなかった。しかし、平地からでは見る事の出来ない迫力ある山姿が望められ、堪能する。大きな窓からセントエライアスの前山が見えるモーターでしばらく休憩し、クルアネ湖方面に観光に出掛ける。湖の東方向にルビー山脈の雪が解けて地肌が出ているのが見える。その奥のニスリング山脈は雪で真っ白で対照的である。翌日は、天気もまあまあ良いので、ヘインズ・ジャンクションから片道 160km のホワイトホースを往復する。途中で小雪がちらついていたが、しばらくして止み、良い天気になった。カナダ側はなだらかな雪山だが峠を越えるあたりから険しい連山になる。最高地点は約 980m である。キャンピングカーできてスキーや登山をしているパーティがいる。

4月7日、ヘインズから「アラスカの翼」という会社名の9人乗りの小さいプロペラ機で空路ジュノーへ、そしてシアトルを経由して4月8日に日本へ向かい、4月9日に帰国した。ほぼ、予定通りの旅をしたが、残念だったのは、旅行中、毎晩、各人がそれぞれ夜中に何度も起きて空を眺めたが、オーロラを見ることはできなかった。やはりもう少し早い時期で2-3日待機する必要があるようだ。

(文責・沖允人)